

第4回 10月25日(火)

「スンダ語」

講師：降幡 正志 東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授

スンダ語 (basa Sunda, 英: Sundanese) は、インドネシア・ジャワ島の西側およそ3分の1の地域で主に用いられている言語です。

インドネシアでは国語・公用語としてインドネシア語が全土にわたって普及していますが、その一方で国内には数百におよぶ地方語（あるいは地域語 regional languages）が存在しています。基本的な言語状況として、インドネシアでは各自の地方語を第一言語として習得し、そのうち学校教育などを通じてインドネシア語を学んでいきます。スンダ語は、地方語としてはジャワ語に次いで二番目に多い話者人口（2,700万～3,000万人）を抱えています。

私自身は、インドネシア語の学習を進めていくうちに、地方語をなにか一つでも学ぶことにより、インドネシア語がより立体的に見えてくるのではないか、あるいはインドネシアの多様な言語状況をより深く理解できるのではないか、という考えに至りました。それがスンダ語を学ぼうと思ったきっかけです。

スンダ語は、話者の数からすると決して小さくはないのですが、まだ十分に研究が進んでいないとはいえ、私自身も分からないところが多々あります。それでも、あまりなじみのない接中辞という文法要素の存在など、日本語話者にとって珍しい現象がある一方で、助詞「は」に非常によく似た語や敬語使用など、日本語に近い現象などもあり、スンダ語それ自体がとても魅力的な言語であると私は思っています。

今回は、インドネシアの言語状況と、スンダ語およびスンダ語を取り巻く状況を紹介します。